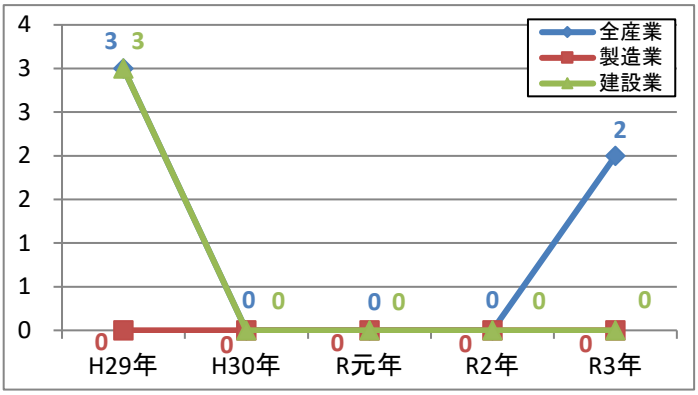
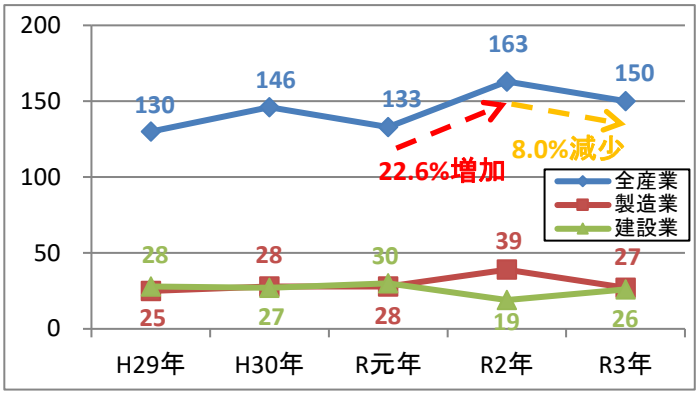
令和３年　労働災害発生状況

淡路労働基準監督署



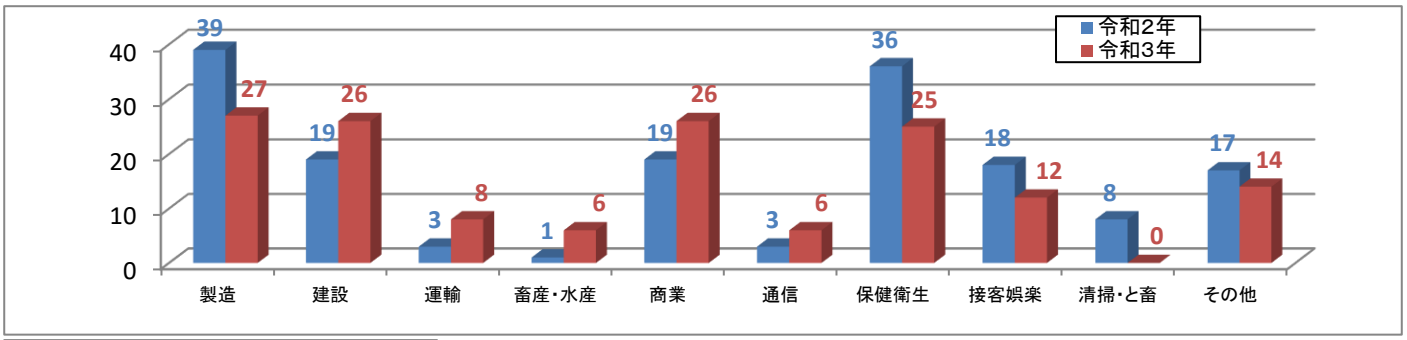
死亡者数の推移

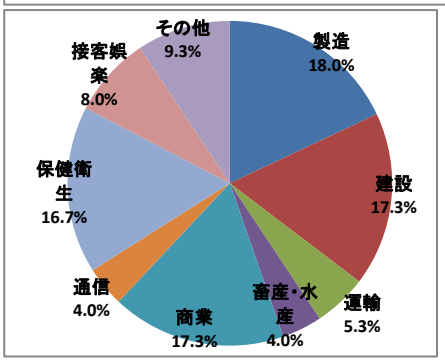


死傷者数の推移

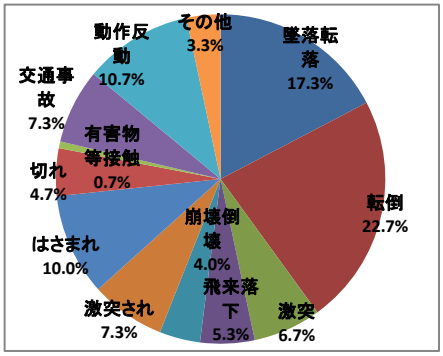
死亡者数については、平成29年に3人発生した後、平成30年以降は0人で推移しており、死亡災害の根絶に至っていたが、令和3年に2人（1人は新型コロナウイルス感染症による。）発生している。また、休業4日以上の死傷者数については、平成29年から130人以上の数で推移し高止まりの傾向にある。令和2年は163人と前年と比較すると22.6%の増加であったが、令和3年は150人と前年と比較すると8.0%の減少となっている。なお、令和3年は業務中に新型コロナウイルス感染症に罹患した者が5人おり（令和2年は20人（全体の12.3%））、全体の3.3%となっている。

業種	令和3年		令和2年		前年比較	
	死傷者数（人）	構成率（%）	死傷者数（人）	構成率（%）	死傷者数（人）	増減率（%）
製造	27	18.0	39	23.9	−12	−30.8%
建設	26	17.3	19	11.7	7	36.8%
運輸	8	5.3	3	1.8	5	166.7%
畜産・水産	6	4.0	1	0.6	5	500.0%
商業	26	17.3	19	11.7	7	36.8%
通信	6	4.0	3	1.8	3	100.0%
保健衛生	25	16.7	36	22.1	−11	−30.6%
接客娯楽	12	8.0	18	11.0	−6	−33.3%
清掃・と畜	0	0.0	8	4.9	−8	−100.0%
その他	14	9.3	17	10.4	−3	−17.6%
全産業	150	100.0	163	100.0	−13	−8.0%

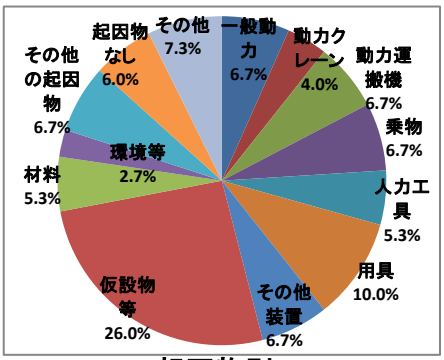




業種別割合



事故の型別



起因物別

業種別については、『製造業』が最も多く27人（18.0%）、次いで『建設業』、『商業』26人（17.3%）、『保健衛生業』25人（16.7%）、『接客娯楽業』12人（8.0%）、『運輸業』8人（5.3%）、『畜産・水産業』、『通信業』6人（4.0%）となっている。前年同期と比べると、『建設業』、『運輸業』、『畜産・水産業』、『商業』、『通信業』で増加している。

事故の型別については、『転倒』災害が最も多く34人（22.7%）、次いで『墜落・転落』災害26人（17.3%）、『動作の反動・無理な動作』災害16人（10.7%）、『はさまれ・巻き込まれ』災害15人（10.0%）となっている。

起因物別については、『仮設物・建築物・構築物等』が最も多く39人（26.0%）、次いで『用具』15人（10.0%）、『一般動力機械』、『動力運搬機』、『乗物』、『その他の装置等』、『その他の起因物』10人（6.7%）となっている。

資料出所：労働者死傷病報告（様式第23号）による。